

エネルギー環境 教育のひろば

北海道エネルギー
環境教育委員会
広報部会
2010/03/25 発行
第19号



全体研修会開催

グループ討議

活発な話し合いに

平成22年2月20日ホテル
ライフォート札幌において、
エネルギー環境教育研究全
体研修会が行われた。今年度
より内容を一新し、参加者に
よるグループ討議をメイン
にした。

当日は、武岡委員長の挨拶



の後、消費生活アドバイザー、
省エネ普及指導員 宮森芳
子氏が「持続可能な社会をめ
ざし、日常生活からエネルギ
ー環境問題を考える」という
テーマで講演を行った。

その後、研究部会 平岸中
学校 高橋伸充氏より、今年
度、札幌市立篠路小学校を会
場に開催された、第3回全道
研究大会の成果と課題（総
括）が報告された。

今回の研修大会の目玉で
あるグループ討議は、「講演
から得た授業作りのヒント」
「エネルギー環境教育（研究
委員会）のあるべき姿」をテ

「持続可能な社会をめざし、日常生活からエネルギー環境問題を考える」

講師 宮森 芳子氏

消費生活アドバイザーであり、省エネ普及指導員でもある宮森芳子氏を講師に招いて、全体研修会の冒頭で講演をしていただきました。内容は、十年の省エネ歴から日常生活の中の「エネルギーとくらし」についてです。家庭でのエネルギー消費が年々増加していることやその省エネ対策についても具体的に分かりやすく説明していただきました。「住生活」では、窓のウォームビーズや暖房温度を1℃下げると効果が省エネに大きいことを、「衣生活」では、温熱四要素（温度・湿度・気流・輻射熱）が温熱環境に左右し体感温度に影響することを、「食生活」では、体を温める食材と省エネクッキングについて自らの体験に基づいて話され、説得力のある内容でした。最後に、日常生活の工夫から省エネライフ体質改善を図ることや3Kから3S（シンプル・スリム・スマート）に省エネイメージのチェンジを図ることを熱く語られ、暮らしの中のP D C A（省エネ環境教育）の重要性を70分間にわたりソフトな口調でやさしく話していただきました。講演終了後もグループ討議にも参加し、アドバイスをいただきました。



ーマに活発な話し合いが行
われた。

各グループからの報告は、
次のような内容であった。

・本委員会は、教科や校種を
こえた委員会であること
が、最大のメリットである。
このことをどのようにな
かしていくかを考えるこ

とが必要である。

・授業も実生活に即している
もので、皆さんが実践した
くなる授業を広めること
が大切である。

グループ討議は、初の試み
であったが、会員のニーズや
考えが広く話され、とても有
意義な研修会となった。

北海道エネルギー
環境教育研究委員会
連絡先
北海道エナジートーク21
札幌市中央区北1条西5丁目
北1条三井ビル2F
TEL 011(251)9710
FAX 011(251)3974